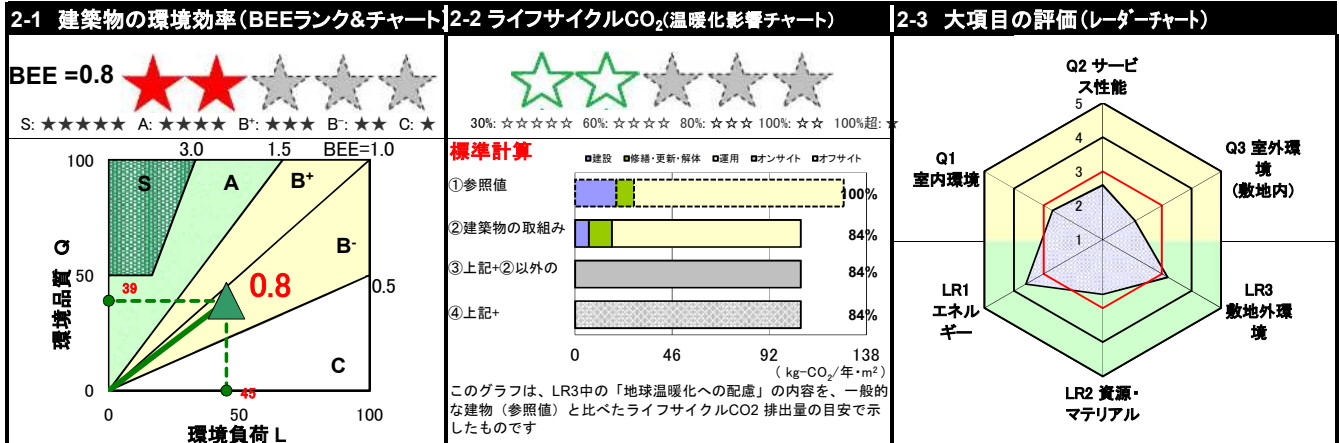


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24008

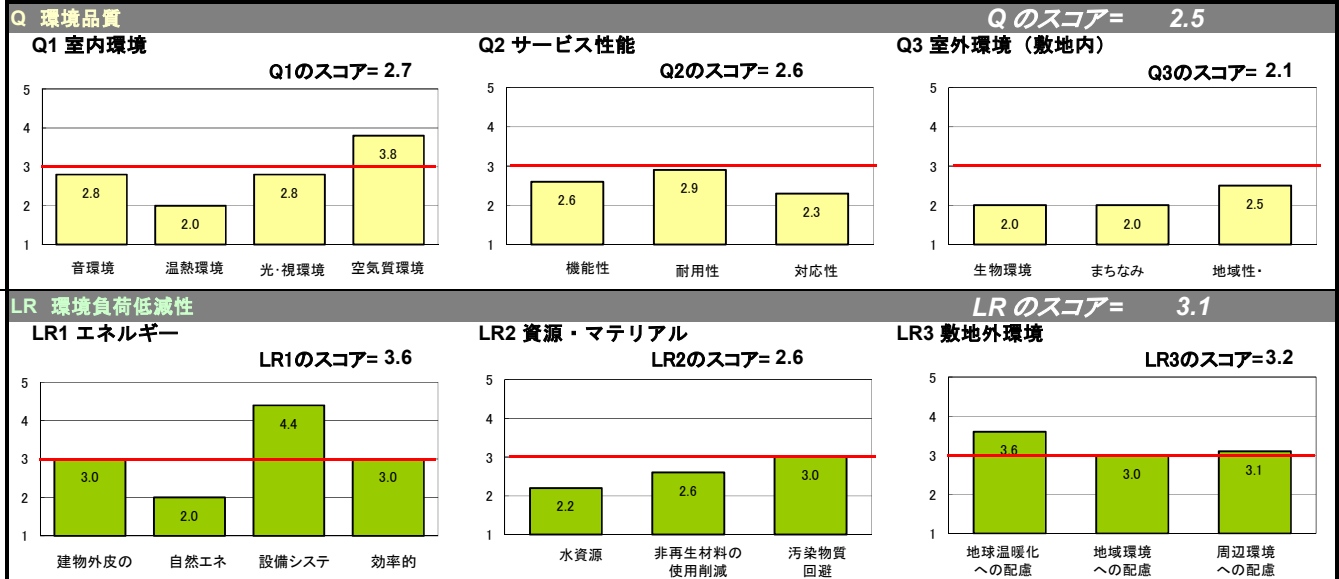
建築物名称	(仮称)川崎Ⅱプロジェクト新築工事
建築主	株式会社シーラ 代表取締役 湯藤 善行
建築物の所在地	川崎市川崎区堤根34番3、5、10、35番5
設計者氏名、建築士事務所名	山口 一樹 株式会社瑠建築設計事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,163.89㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和7年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 川崎Ⅱプロジェクト 新築工事	階数	地上5F、地下0F
建設地	神奈川県川崎市川崎区境根34番3、5、10、35番5	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	192 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年4月24日
敷地面積	1,362 m ²	作成者	株式会社 瑠建築設計事務所
建築面積	812 m ²	確認日	2024年4月24日
延床面積	3,164 m ²	確認者	株式会社 瑠建築設計事務所
		外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	1.9/4.3	2.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	カーテンと庇を組み合わせてグレアを制御	1.6/2.2	3.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.88	3.6/5.0	3.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	躯体と仕上げ材の分別が容易な計画	2.4/4.7	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材の分別が容易な計画	2.0/4.0	2.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	付置義務を満たす駐輪・駐車スペースを確保	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.88	3.6/5.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.9

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.88	3.6/5.0	3.6

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.40		-	2.7
1 音環境						-	0.15	2.8	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル					—	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	-	-	2.6	0.50	
1 開口部遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御					—	-	-	3.0	0.50	
1 室温		W			—	-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能					—	-	-	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	-	-	1.0	0.20	
2.3 空調方式					—	-	-	1.0	0.30	
3 光・視環境						-	0.25	2.8	1.00	2.8
3.1 昼光利用					—	-	-	4.0	0.30	
1 昼光率					昼光率:2.0%以上	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					—	-	-	4.0	0.30	
1 昼光制御		W			カーテンと庇を組み合わせてグレアを制御	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度					—	-	-	1.0	0.15	
3.4 照明制御					—	-	-	1.0	0.25	
4 空気質環境						-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策					—	-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気					—	-	-	3.6	0.38	
1 換気量					—	-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.6
1 機能性						3.0	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.57	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	-	-	2.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.43	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		「3-1劣化対策等級」の等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		フローリングやビニルクロスを採用	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	2.2	1.00	2.3	
	3.1 空間のゆとり									-	-	1.4	0.50		
	1	階高のゆとり						-		-	-	1.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ						-		-	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり							-		-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性						-		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性						-		3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性						-		3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性						-		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性						-		3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保						-		3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)											-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	-	2.0	0.30	-	-	2.0	
2	まちなみ・景観への配慮				G				-	2.0	0.40	-	-	2.0	
3	地域性・アメニティへの配慮								-	2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上								-	2.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上				G	W		H	-	3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー											-	0.40	-	-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	-	3.0	0.20	-	-	3.0	
2	自然エネルギー利用					W		H	-	2.0	0.10	-	-	2.0	
3	設備システムの高効率化					W		H	BEI=0.88	4.4	0.50	-	-	4.4	
4	効率的運用								-	3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	-		
	4.1	モニタリング				W		H	-	-	-	-	-		
	4.2	運用管理体制				W		H	-	-	-	-	-		
	集合住宅の評価								-	3.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング				W		H	-	3.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制				W		H	-	3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル											-	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護					W	R		-	2.2	0.20	-	-	2.2	
	1.1 節水								-	1.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								-	3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無							-	3.0	1.00	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無							-	-	-	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減								-	2.6	0.60	-	-	2.6	
	2.1	材料使用量の削減				W	R		-	2.0	0.10	-	-		
	2.2	既存建築躯体等の継続使用				W	R		-	3.0	0.20	-	-		
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R		-	3.0	0.20	-	-		
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W	R		-	1.0	0.20	-	-		
	2.5	持続可能な森林から産出された木材				W	R		-	2.0	0.10	-	-		
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				W	R		躯体と仕上げ材の分別が容易な計画	4.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避								-	3.0	0.20	-	-	3.0	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								-	3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避								-	3.0	0.70	-	-		
	1	消火剤				W			-	-	-	-	-		
	2	発泡剤(断熱材等)				W			-	3.0	0.50	-	-		
	3	冷媒				W			-	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境											-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮					W			CO2排出率:84%	3.6	0.33	-	-	3.6	
2	地域環境への配慮								-	3.0	0.33	-	-	3.0	
	2.1 大気汚染防止								-	3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	-	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								-	3.0	0.25	-	-		
	1	雨水排水負荷低減					R		-	3.0	0.25	-	-		
	2	汚水処理負荷抑制					R		-	3.0	0.25	-	-		
	3	交通負荷抑制					R		十分な駐輪・駐車スペースを確保	3.0	0.25	-	-		
	4	廃棄物処理負荷抑制					R		-	3.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮								-	3.1	0.33	-	-	3.1	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								-	3.0	0.40	-	-		
	1	騒音							-	3.0	1.00	-	-		
	2	振動							-	-	-	-	-		
	3	悪臭							-	-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								-	3.0	0.40	-	-		
	1	風害の抑制							-	3.0	0.70	-	-		
	2	砂塵の抑制							-	-	-	-	-		
	3	日照阻害の抑制							-	3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制								-	3.7	0.20	-	-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							広告物照明の設置なし	4.0	0.70	-	-		
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							-	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	○	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		-	-	2.0	3.0	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	-	1.0	3.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC - ηAH -
昼光率 2.3%		
自然換気有効開口比 0.2%		

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース .0㎡ / 人 病床 .0㎡ / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡	
コンセント容量 0.0 VA/㎡	
天井高 0 m	
リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%	
想定耐用年数 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 20 年	
想定必要間隔 0 年	
階高 0 m	
壁長さ比率 0.0%	
床荷重 - N/m2	

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 91%	建物緑化指数 0%				
空地率 39%	水平投影面積率 22%	地表面対策面積率 45%	舗装面積率 24%		

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m - 日射等性能等級 等級3 相当					
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 0.0%	採光を満たす住戸数 0.0%			
	通風を満たす教室数 0.0%	通風を満たす住戸数 0.0%			
BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 0.88 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW					

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%					
特定調達品E - エコマーク商品 -	自治体指定の特定品目等 -				
使用比率 0.0%					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 145% 棟間隔指標Rw 1.09					
地表面対策面積率 76.0%	屋根面対策面積率 0.0%	外壁面対策面積率 0.0%			
見付面積Sb 750㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 66.32 m	基準高さHb 7.75 m				
緑地 197㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡	高反射対策面 ㎡	再帰性反射対策面 ㎡			